



岩佐クリニック院長 岩佐厚さん(55)

名医はこの人

ブラックジャックを探せ



西日本最大の電気街と歓楽街が融合する「日本橋」(大阪市中央区)に開業して20年目の岩佐クリニック。院長の岩佐厚医師は、脳血管障害に併発して起きる「神経泌尿器科」領域の診断と治療を得意とする泌尿器科医だ。その温厚な人柄は、泌尿器科という診療科に対して患者が持つ「恥ずかしさ」を和らげる。岩佐医師が数多くのリピーター患者に支持されるゆえんだ。

同院を訪れる患者で、特に多い病気の一つに前立腺肥大症がある。

「前立腺肥大症の症状といえば、残尿感や排尿障害が知られていますが、これは前立腺が大きければ必ず

前立腺肥大 ED 視野に治療

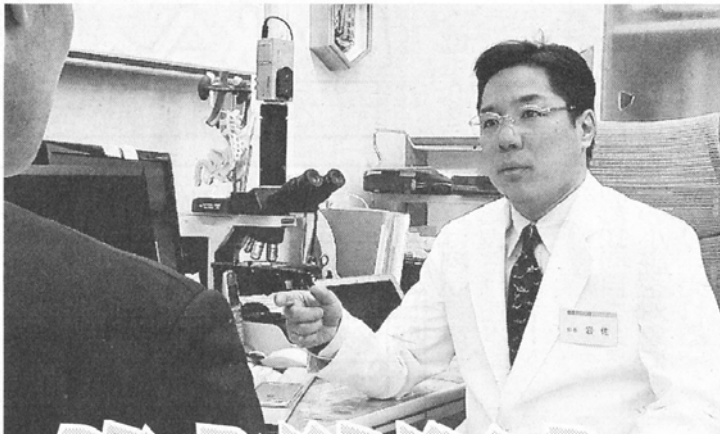
ず出る症状ではない。日本人の場合、前立腺は小さくても、組織の弾力性が失われることでこうした症状が出るケースが多い」と語る岩佐医師は、α1ブロッカーや抗コリン薬、さらには5α還元酵素阻害薬などの薬を駆使し、症状だけでなく患者のセックスライフに合わせた改善を目指していく。

「当院は比較的若い患者さんが多いので、前立腺肥大症の治療でもED(勃起不全)との関連を視野に入れて治療計画を立てるようになっています」と岩佐医師。忙しいサラリーマンには効果的な薬物療法による治療計画を立て、それでいて手術のタイミングを逃さない気配りも忘れない。

対象疾患の性格上、どうしても患者の精神面でのフォローに重点を置かざるを得ない場面も少なくないが、泌尿器科医としては府下で初めて日本性科学会セラピスト認定を取得するなど、受け入れ態勢は万全だ。

「患者さんと話すことが好きなので、忙しくてもストレスにはならないですよ」と笑う岩佐医師を頼って、遠くは四国から通ってくる患者がいるのもうなずける。

中高年男性にとって最も身近にいてほしい存在である泌尿器科の名医が大阪・日本橋に居ることを、特に関西の読者には覚えておいてほしい。(長田昭二)



いわさ・あつし 1959年、奈良県生まれ。85年、東海大学医学部卒業。大阪大学医学部泌尿器科入局。同大医学部附属病院、大阪労災病院、東大阪市立中央病院(現・東大阪市立総合病院)などに勤務の後、94年に岩佐クリニックを開業し院長。大阪大学医学博士。趣味はバイオリン演奏(大阪府医師会フェルハーモニー理事・団内指揮者兼バイオリン奏者)。